

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第2回フォーラム研究会
逐語録

(木村) それでは、第2回のフォーラム研究会を始めたいと思います。

まずは資料に番号を振っていききたいと思います。議事次第が F2-0 です。第1回フォーラム研究会議事録案が F2-1 です。第1回フォーラムに関するアンケート(自由回答)が F2-2 です。こちらは、土田先生に処理していただき、匿名の意見になっておりますので、次回
の設計に役立てたいと思います。

第2回フォーラムプログラム案が F2-3 です。「記録について」と書かれた資料が F2-4 です。第1回フォーラムのグループワークの付箋をまとめた A3の資料が F2-5 です。『「原子カムラ」、「原子力村」』と書かれたパワーポイント資料が F2-6 です。6種類の資料があると思います。よろしいでしょうか。

0. 議事録確認

(木村) では、早速ですが、議事に従って進めたいと思います。最初は議事録確認です。F2-1が前回の議事録ですが、こちらはもう皆様にはお送りしているものですので、何かありましたら連絡をいただければと思います。

前回は、第1回フォーラムをどう進めるかということについて、ほとんどの時間を使ったということです。その他として、2回から5回までの研究会の日程をお知らせしております。

ということで、議事録確認はほとんど読まずに済ませたいと思いますけれども、何かございますか。よろしいでしょうか。

1. 第1回フォーラムの反省

(木村) それでは、次の議題、前回のフォーラムに関する反省をしていきたいと思いません。

まず、アンケートをじっくり読む前に、前回実際にどういう印象を持ったか、どういう問題点を感じたかということ、皆さんの中で共有していったほうがいいかなと思います。ではこちらから順番に、前回の感想や問題点等を出していってもらえますか。

—— 私は全体を見ていました。自分の意見をうまく言えない人が多かったなという感じがしました。詰まってきたら最後には言えるのでしょうけれども、最初は薄い印象がありました。

—— サブファシリテーターをしていました。1回目のグループワークのときには、何枚もさっさと書く方と、なかなか書けない人との差がありました。だから、あまり書いていらっしやらない方の補佐をしたのですが、他の参加者から見ると、その方の意見だけを吸い上げているというような印象を与えてしまったかもしれません。私としては、マニュアルの通りにやっていたので、やはりうまく言えない人の意見を見える化するのサブの役目だと思っておりました。

—— グループワークを3回している間に、参加者の方々が徐々にほぐれてきて、最終的には活発な意見交換がされていたような感じがします。

アンケートのQ8の「ご意見・ご感想などなんでもご自由にお書きください」を見ると、サブファシリテーターの役割は難しいものがあるなと感じました。ファシリテーターの方の個性にもよると思うのですけれども、押したり引いたり加減が難しいのかなと思いました。

—— 私は、受付やタイムキーパーでした。自分がやったことに関しては、少しバタバタした感じがあって、参加者の方にご迷惑をかけたのではないかと、反省しています。シミュレーションをしてから臨むべきだったと思っています。

全体の流れの中では、私は参与観察ということで、一步離れて見ていたのですけれども、3回とも同じグループにいらした方がいて、他の人はグループが変わっていたので、少し条件が違ったなというところが気になりました。以上です。

—— 私も、受付その他の自分の動きが細かく整理されていなかったもので、反省して、次回からもう少しスムーズに流れを作るようにいたします。

それから、サブファシリテーターをさせていただいたのですけれども、最初に書くときに、うまく入り込めていないような感じの方がいました。でも、そのときにはどのように引き出してあげたらいいのかが分からなくて、何もできなかったと思います。

アンケートを読んでいると、(サブファシリテーターの役目は)とても難しいなと思いますので、もっと勉強していきたいと思います。

—— サブファシリテーターを担当しました。

全体の印象としては、自己紹介のときの皆さんのお話を聞いて、いいメンバーが集まったなと思いました。いろいろな意見が聞けそうだなと。それはとてもよかったと思います。

グループワークに関しては、やはり 1 回の説明では皆さんがしっかりルールを飲み込んでいないということがあって、なかなかうまく進行できないようなときに、本来はサブファシリテーターがちゃんとフォローしなければいけないのですけれども、そこで説明を長くしてしまうと時間を取りすぎるといふこともあるので、私の場合はそれほど丁寧な説明をしないで、ファシリテーターの方に足りないところをどんどんやっていたのです。あまりファシリテーター役がうまくできなかった方がいらしたので、ついこちらがリードする形になってしまって、少し強くやりすぎたかな、とも思っています。ただ、あそこまでしないと、なかなか皆さんの意見が出し切れなかったのではないかと、という思いもあります。

つい（サブファシリテーターを）やる側になると一生懸命になってしまうので、外から冷静に見ていた方々には、こうしたほうがよかったのではないかと、こういうふうに見えた、という意見を、今日はぜひ聞きたいなと思います。

—— 2点あります。1点目は、今回原子カムラを越えるということで、相互に「尊重」することが大切なのかなと思うのですけれども、やはりコミュニケーションがうまい人のほうがそういうことがしやすいのではないかと思いました。そうすると、コミュニケーションがあまり上手でない方々は、どうしたらうまくなるのか。特に、他の人の意見を聞くことの重要性にどうしたら気付いていけるのかということを考えなければいけないのかなと思いました。

もうひとつは、参与観察をしていて思ったことなのですが、順番にこちらの方から言ってくださいというスタイルのときに、自分の言うことをまとめるのに必死で、他の人が話していることをなかなか聞けない人が多いのです。自分が話し終わった人は話に入っていけるというパターンがよく見られて、そういうところをどうにか改善したいなと思いました。以上です。

—— 記録を担当しました。グループワークの音声は全部聞きました。声の印象から、やはりグループワークの方法を皆が理解していないと感じました。それなので、進行があまりスムーズでなかったりして、サブファシリテーターさんが頑張らざるを得なかったところもあったのかなと。

その原因として、2回目と3回目のチェンジのときに総合ファシリテーターが全体に対して説明をしていたのですけれども、あの説明をほとんど誰も聞いていなかったのではないかと私は思いました。というのは、総合ファシリテーターの声がほとんど聞こえなかったのです。そのくらいグループの中で話し合いが終わらないような感じだったので。総合ファシリテーターの声が聞こえないので聞いていない。聞いていないから、サブファシリテーターがもう 1 回説明する。それでも理解されない。だからサブファシリテーターがガンガンやらざるを得ない、という構造がなんとなく見えました。

—— サブファシリテーターを担当しました。特定の人の意見だけを拾ったように見えたのではないかと、というご意見が先ほどありましたが、それは私も同じく思いました。

もう1つは、2回目のシールを貼るという作業は、私は簡単な作業だと思っていたのですが、集まってきた方たちは、書いてあることを理解して、本当にそうなのかと共感するまでに時間がかかっていました。

それから、1回目にシールを貼りたかった、皆さんの意見を直に聞いて、自分の頭に残ったもの、気持ちに残ったものに、最初にシールを貼りたかったというご意見がありました。私たちには気付かないことがあったなと思いました。

2回目は、グループに残った方が付箋を読んで、分かることだけを説明したので、他の皆さんにあまり納得されなかったというか、どんな内容なのかよく分からずにシールを貼っていた人もいたと思います。分かりやすいものにはポンポン貼っていたのですが、分かりづらい付箋にシールを貼るのを戸惑っていた姿がとても印象的でした。

—— 補足していいですか。外から見ていると、シールを貼るときに、言葉の強い専門家の方がいて、グループに残られた方が説明したときに、すぐにご自分のコメントを言ってしまったのですよ。その通りとか、これは間違っているとか。なので、皆さんの手が止まってしまって。少し慣れてくると、そうは言っても自分も貼ろうかな、みたいに動き出したんですが。言葉の強い方の影響を受けていたというのを特に感じました。

—— それは、サブの2人は感じなかったのですか？

—— 感じました。

—— 何にもおっしゃらなかったのですか？

—— あまり強くは言いませんでした。

—— あと、ずっと同じテーブルで残られた方については、新鮮さがないというのもあった。やはり、1回でもどこかよその机に座られたほうがよかったのではないかと思います。

—— すみません。ずっと残る人が出ないようにくじを作ることができたのではないかなというのは、自分の反省です。

—— 私は、1点だけ非常に深刻に考えている問題があります。

原子カムラの境界をいかに越えるかという研究ですので、原子力の専門家であるがゆえにできてしまっている壁みたいなものをどうやって越えていくかというのが一番大きなテ

ーマだと思います。

今の皆さんのお話をお聞きしていても思うのは、限られた時間で、10人なりのメンバーで意見交換をすることの限界というのは、どんな場だろうと、どんな人が集まろうともあるわけです。コミュニケーション上の普遍的な問題として、当然越えなければいけないギャップというのは、どんな場合でもあるな、ということがひとつ。

それから、原子力に限らず、ある特殊な技術の専門家と、その技術のことをほとんど知らない一般の方との間のコミュニケーションで生じるギャップもある。

それから、原子力であるがゆえに生じているギャップがある。

フォーラムをこれから重ねていく中で、この3つのギャップをどのように仕分けをして、原子力ムラのギャップを越えるというところに整理していくのか。これは大変難しいなと思っています。まだ私の頭の中に解はないのだけれども、5回が終わるまでには、何か整理をしていかなければいけない問題なのではないかと思っています。

—— 私は全体を見ていました。一番感じたのは、ファシリテーターの捌き方、議論の仕方によって、一方的に話している人がいると、他の人はなかなか話そうと思っても話せないのですよね。ファシリテーターの方は、あまりそれをやめなさいとは言えなかったの。かなり独占的に発言した方がいたので、話せなかった方は欲求不満がついたのではないかと感じました。

ファシリテーターに関してさらに言うと、ファシリテーターなのに、進行をせずに、自分の意見を言っている方がいましたね。

—— やはり、そういう場合はサブがリードしないと駄目なのです。参加者の皆さんは、ファシリテーターをやったこともないし、ファシリテーターがどういうものかよく理解していないわけですから。

—— 説明はしましたけれども、頭の中に入っていないのでしょうかね。

—— たとえ分かっているけども、グループワークの場にいけば発言したくなるのですよ。

—— もう1点は、ファシリテーターもサブファシリテーターも、言わない人の意見をまずは引き出してほしいと思うのです。

—— そうなのです。言う人はまだいいのですよ。言わない人からどうやって引き出すかが大事だと思います。

—— 私としては、発言の少ない方のご意見を書きとめたつもりだったのですが、周りか

らはそう見えなかったのかもしれませんが。

ただ、参加者の方から、サブが書くのではなくて、本人に書いてもらったかどうか、というご意見も出たので、それも考えたほうがいいかなとも思いました。

—— 言いたいなと思っているのに、言えなかった方もいましたね。一方で、たくさんしゃべれた人もいます。均等とは言いませんけれども、吸い上げるような進行をしたほうが、欲求不満はなくなるのではないかと思うのです。

—— アンケートを見ると、専門家の方でも、意見が言いにくい雰囲気だったというご意見がありますね。一方で、年齢層の高い方、学会員の方が発言すると、他の人が反論できない、という意見もありますし。とても難しいですよ。あちらを立てればこちらが立たず。

本当はファシリテーターは、自分の意見を言ったり、方向を決めて誘導するのではなく、満遍なく、なかなか発言できないでいる人に意見を言ってもらったり、言うのが苦手だったら書いてもらったりするべきで、それで、書くのが苦手だったら私たちが拾うわけだけど、そういうことはやはり大事だなとも思いましたね。

たとえ元気ネットに対する批判をいろいろ書かれても、やらなきゃいけないことはやらなきゃいけないと思います。

—— 私が見ていた班では、ファシリテーター以外の方が、意見が少ない方に、「どう思いますか？」みたいな振りをしている場面があったのですね。いろいろな人の意見を引き出さなきゃいけないということは、ファシリテーターだけが知っていればいいことではなくて、参加者全員が分かっていることが非常に重要だと思います。1人のせいで全部が崩れちゃうのはもったいないなと思います。ファシリテーターの力云々だけではないと思いました。

—— 今回の場合は特に、皆がファシリテーターになる可能性があるわけだから、そうですね。

—— たぶん、話し合いはいくらやってもそ時間が足りないのだらうと思うのですよ。「もう時間ですよ」って総合ファシリテーターが言いましたけど、もう少し前に、「あと何分ですよ」とちゃんと言ってもらったほうが、自分の意見やグループのまとめができるのではないかな。

(木村) 一応、5分前は言っていましたけど。

—— でも、「もう終わりですよ」と言った後に、実際はもっと続いたのですよ。1 回目のグループワークは時間の延長があった。

—— 午前中の会議（業務推進全体会合）で、時間が伸びたのがよくなかったという意見がありましたよね。やはり時間の管理はしっかりしないといけないですよ。

—— 木村先生はまだ発言されていないですが。

（木村） 私が感じた問題点は、実は F2-3 にまとめていますので、後ほどご紹介したいと思います。

一応一通り感想をお聞きしましたが、他に何かありませんか。

—— 印象に残っている言葉として、2 回目に他のグループから来られた市民の方が、「えっ、専門家でもこういう考え方をする人がいるのですね」と言っていました。自虐的な意見が多いですね。1 回目では全然こういう考え方の人がいませんでしたよ。私はそれを聞いて、専門家の方にもいろいろいらっしゃるんだなと思いましたね。

—— 私が見ていた中では、専門家の方のお話を聞いて、市民の方がすごく感情的な反応をしていたことがありました。こういう反応は、どのように受け止めたらいいのかな、と思いました。それを受け止めるということがあったほうが、本当はいいんじゃないかなって。本当に明らかに表情が変わって、何を言っているの、あなたは、みたいな感じでしたね。

—— 付箋にはキーワード的なことを書きますよね。それに対して 2 回目でシールを貼る。3 回目は、いくつか付箋を選んで、共感されることを紙に書いてくださいという問いかけをしますけれども、3 回目のグループワークのときは、2 回目にシールを貼ったときにはいない方も新しく加わるわけですよ。

そうすると、付箋に対して、この部分は賛成だけれども、そうではない部分もあるという方もいらっしゃるわけです。だから、どういうふうに書いてくださいとお願いすればいいか、悩んだのですけれども。

（木村） 実は、そこに関しては、第 2 回のフォーラムをするにあたって、少し整理したのです。順番がバラバラになって申し訳ないですけど、F2-3 をご覧ください。

下のほうに、[シンパシーとエンパシー] という項目を入れています。これは、昨年度から言っていることですが、このフォーラムとして、「尊重」というときは、「エンパシー」を重視したいということです。シンパシーとエンパシーは、普通は両方とも「共感」

と訳してしまうのですね。だけど、これを分けたいということです。シンパシーは「感情移入」、エンパシーは「自己移入」と訳すそうです。

次の例が分かりやすいなと思ったので、載せておきました。

国語の問題でいうと、「その時、主人公はどんな気持ちでしたか？」と問えばシンパシー型、「あなたが主人公と同じ立場に置かれたら、どんな気持ちになると思いますか？」と問えばエンパシー型、とたとえています。シンパシー型は、「主人公の気持ちになって考えましょう」。エンパシー型は、「主人公の気持ちは本人にしか分からない」ので、自分自身に置き換えて考える、つまり、非常に観察的なものになってくるのですね。観察という一歩引いたところで相手を見ようとするのがすごく大切で、そのセンスが「尊重」につながる。

こういう部分を大切にしたいなと思うと、共感できる／できないというよりも、一歩引いて、こういう意見が出てきたが、それに対して、自分だったらこう思う、ということを書いてもらえば良かったのですね。これを読んで、そういうところをもう少しうまく誘導できたらよかったなと思ったということです。そうすれば、一歩引くということのレッスンになるというか。そういうことも少し考えています。

それから、ついでのので私を感じた問題点を言っておきます。[対処すべき問題点]ということで、私が適当にまとめたものとしては、まずひとつは、フォーラムの目的が分からないという意見が多いので、詳細に説明を実施しなければならないということ。

あとは、総合ファシリテーターとサブファシリテーターの公平性についての不満が出ていたと。これはある程度は仕方ないものではありますが、やはり公開していくということを考えると、ここについて不満がなるべく少なくなるようにしていったほうがいいだろうということ。

あとは、私は全体を見ておかないと、総合ファシリテーターが困るのではないかと。私が参与観察で張り付いていると、相談する人がいなくなってしまうので。私はやはり一歩引いて全体を見ながら、総合ファシリテーターと相談しながらやっていかないと駄目だなということで、次回からは参与観察は私の代わりに神崎さんをお願いします。私は一歩引いて、全体を見ながら、その場その場に応じた戦略を相談していかないと厳しいというのがこの前の実感です。

総合ファシリテーターさん、1人1人に前回の感想を出してもらったのですが、ご自身はどのようにお感じになりましたか。

—— 私があの日一番気をつけたのは、専門家の方と、そういう人と話したことが全くない人が初めて出会うわけですので、両方がいろいろなことを不安に思われたり、いろいろなことを考えていらしたと思いましたので、できるだけ安心して参加できるような場になるように、落ち着いて、公平感があるように運営するというです。それと、どんな意見もちゃんと受け止められるような場があるんだ、と皆さんが感じてくださるように、

そういう場づくりを心がけて進行しました。

グループワークに関しては、それぞれのチームのファシリテーターを、指定した方にやっていただくというのは普通だったらありえないけれども、この研究は皆さんが交流して、垣根をどのように越えられるかということを見ていくものなので、わざとそういう仕組みで実施した。経験のない方に突然全体進行をお願いすること自体が、はっきり言えば無理。だけど、それをあえてやるということで、元気ネットがそれを応援する。ということで、結構抑えながら取り組んだと思いますけれども。でも、長年の勤で、抑えすぎると場が進行しないなと思ったりした場合は、少し具体的に情報提供したほうがいいなと思うところにお話をしたり、というのが少しありました。

今、総合ファシリテーター、サブファシリテーターの公平性についての不満、というお話がありましたけれども、あまりそれを怖がっていると、はっきり言えば進行できない。ただし、我々が全くヘルプをしない中で、どれだけ垣根を越えられるのかを見たい、まったくのチャレンジをするというのであれば、もちろんそれでも構いません。どこに研究としての価値を置くか、ということなのだと思います。

私が途中で木村先生と相談をしたかったのは、この研究としてどちらを取るかという微妙な判断を迫られたときに、私の今までのファシリテーターとしての経験で判断するのではなくて、木村先生の価値観で判断したほうがいいかなと思って、木村先生のお考えを聞くように努めたという流れがあります。

前回、参加者の方がどのように思われたのかを参照しながら、次回のことに関して、これから一緒に見出せていければと思っています。

(木村) ありがとうございます。

皆さんから出てきた問題点をざっと見ていくと、ひとつは、コミュニケーション能力の差が大きいので、そのときそのときによって、グループワークがうまく回るかどうかというところに大きな問題があるということですね。

同様に、ファシリテーションがほぼ理解されていないということです。

コミュニケーション能力の差と、ファシリテーションの能力の差がある。

—— それと、午前中（第1回業務推進全体会合）に土田先生が言われていましたが、ルールの徹底。説明を受けても、すぐにそれが理解できるとは限らないので、次回は、少し時間がかかっても、ルールの再確認はしたほうがいいのではないかという気がします。

—— ルールというのは？

—— 例えば、共感したところにシールを貼るとか。グループワークのやり方を徹底するということです。

—— 分かりました。

ただし、あれは前回の方法で、次回同じことをやるわけではないですよ。

(木村) ではないです。

—— 次回以降、グループワークを進めるときに、そのときのルールをきちんと説明するということですね。

グループワークの方法に関して言うと、第 1 回に関しては皆さんの間で綿密にルールを作って、細かい書面があったのですが、あまり私が細かいことを読んであれこれ言うよりは、私は大事なところを押さえて、それぞれのサブファシリテーターが細かいところを説明するというので、わざとそういう進行にしました。

次回からは、同じやり方を踏襲するのではなくて、もっと分かりやすい新しいやり方を作ったほうがいいかなという感じはします。

2. 第 2 回フォーラムについて

(木村) そうしたら、次の議題に移ったほうがいいですね。F2-3 を見ていただければと思います。第 2 回フォーラムのプログラムについて話していきたいと思います。

まず、私が〔対処すべき問題点〕をまとめています。先ほども触れましたが、再度確認します。

フォーラムの目的が分からないというのは、実はルールの話も入れているつもりです。

総合ファシリテーター、サブファシリテーターの立ち位置について、私も考えたところがあります。グループワークの手順を明確化して、ワーク直前に説明する。質問の取り方に工夫を加える。そのまま聞いても質問は出てこない。発表の直後にいきなり聞いても、どういう質問を出していいか分からないと思うので、その辺を少し工夫しようということを考えています。

あとは、サブファシリテーターのすべきことの範囲も共有して、参加者が、グループワークを自分たちだけで回すためには、自分たちのレベルを上げなければいけないんだということを体感してもらおう。もう、そこまでやったほうがいいかなという気がしています。

運営側に進行をさせておいて、不平不満を後で言うというのは、全然フェアではないですよ。だったら、もう参加者でちゃんと進行をやってくださいと。本当に運営側は支援だけするような体制にしていきますから。ということ、むしろ明確にしてやってはどうだろうか、ということです。

裏面にスケジュールを書いています。まだ、いろいろ議論したいところがあるのですけれども。

受付開始は前回と一緒に12時半です。開会が13時。

13時から13時40分に【イントロダクション】をとります。まず、フォーラムの目的を詳細に提示する。これは第1回にちゃんとやればよかったのですけれども、1回やってみて、目的はなんだろうと思ってくれたくらいのタイミングでやるのもひとつの手かもしれない。「原子カムラ」を取り上げているけれども、それはどういう問題であって、どこに原因があって、我々はどういう仮説を立てていて、その解決策としてこのフォーラムを作っているのです。そういうことをちゃんと説明をしてあげたほうがいいかなと、前回のフォーラムを受けて思ったということです。質問も受けて、研究の達成という意味で、我々と認識を共有してもらいたいということ。

その後、前回の振り返りをします。内容は、この後考えようと思います。

その後、原子カムラに関しての【情報提供】はしておいたほうがいいのかなという気もするし、しなくてもいいかなという気もするし、ここはグレーなところですよ。

次が【グループワーク】です。ここはぜひディスカッションしていただきたいところです。

テーマ案は『「原子カムラ」にある課題』だったと思います。それを、前回のフォーラムで出た話の延長でもっていくと、『「原子カムラ」は存在するのか、しないのか？ するとしたらどこに存在するのか？ そして「原子カムラ」のガンはどこ？』。ガンという書き方はエキセントリックですけども、これは変えるにしても、こういう意味で「課題」を捉えてもらうような感じで話し合ってもらったらどうか、と思っています。

このときに、今日はグループワークで何をやるかという話を、私が、5分くらい時間を使ってしっかり説明しようと思っています。テーマの説明と、おそらくこれはブレインストーミングになると思うので、ブレインストーミングの簡単なやり方のレクチャーですね。その上で、サブファシリテーターをつけるけれども、サブファシリテーターはどのようなときに支援しますということを私がちゃんと説明をして、その上でグループワークに入っていくと。

第1回は、どんどんメンバーを変えていくことを目的にしたのですけれども、第2回からはじっくりということで、今日はこのグループという形で固定しようと思っています。3グループに分けて、50分程度、このテーマでブレインストーミングをやって、原子カムラは存在する、しないとか、しないと思う理由はどこなのか。するとする理由はどこなのかとか。するとしたらどこに原子カムラはあるのか。どこに課題があるのか。そういうことをちゃんと話し合ってもらおうと思います。

その上で、【共有・質疑応答・次回のテーマ】に移ります。これもグループワーク的にやったらどうかというのが提案です。この前、やはり発表の時間が短かったと思いますので、5分取りたいと思います。各グループ5分で紹介してもらおう。発表者はファシリテータ

一でもいいのですけれども、グループで決めてもらったほうがいいかなと。ファシリテーターをくじで決めるとなると、本当にその人に全部おんぶに抱っこというのは厳しいので、ここは誰が話すかをグループで決めてくださいと。それで、この 5 分の紹介は質問を受けないで、3 班が発表するだけ発表すると。

その上で、これから質疑応答に入っていきますけれども、私がここで 5 分、質疑応答の手順の説明をします。

どういう手順にしたかという、まず、各自で、出てきた模造紙をその場に行って見てもらう。見てもらって、それぞれのグループに対する質問を紙に書いていく。その質問づくりに 10 分間とります。このあいだに 1 枚に 1 問という形で書いてもらう。それを質問回収箱みたいのところに入れてもらう。そこまでが 10 分間。

その上で、またグループワークに戻って、出てきた質問を自分たちの中で新しい模造紙にグルーピングして、その回答を考えるという作業を 15 分でやる。その上で、各グループから質問の集約と回答の紹介を、各グループ 5 分で、計 15 分でやる。質問はその場でも受け付けてもいいんだけど、なければそのまま次に行くという形にしていくと、参加者だけで回している感じが具体的に出るのではないかということで、こういうことを 1 回やってみたらどうだろうか、という提案です。

その上で、【振り返り】はよかったと思うので、アンケートに記入して、振り返る。30 秒だと短い人もいたので、1 分にして少し余裕を見て、最後、時間を超過するのはあまりよろしくないということもあって、少し余裕を持って終われるような時間配分にしたいということです。

一番大変なのは質疑応答の部分だと思うのですけれども。こんな感じで、昨日、3 時間ちよつと話し合ってみましたが、いかがでしょうか、という話です。

もう私が進め方をじっくり説明していったほうが、やりやすいのではないかなと思ったのですが、どうですか。

—— サブファシリテーターの立場を明確に説明していただくのは、とても大事だと思います。皆さんそれぞれに、サブファシリテーターの役割を違うふうにとっている方がいたのではないかと思いますし。

(木村) サブファシリテーターも、ルールを作ったほうがいいですか？ ファシリテーターから、ここをこう手伝ってくださいと言われて動くと、とかにしますか。そこまでは無理ですよ。

—— ここを手伝ってくださいと言える方は、やれますよね。何をしなければいけないかが分かっていないから、何をしてほしいかも分からないと思うのです。

(木村) そこはまだいいですね。

一応、「ブレインストーミングというのは、付箋に自分の意見を書く時間を作って、それを1枚ずつ説明しながら貼ってもらうという時間を取った上で、例えばそれをグルーピングしたり、意味を確認したりして、ひとつのものをまとめていくという作業です」みたいなことまで説明しようと思いますけれども。そのくらいしておかないといけないと思います。

—— ホワイトボードがあるので、まずこれをやる、次にこれをやる、ってある程度書いておいたらどうですか？

(木村) いや、プリントを作ろうと思って。ホワイトボードだと、場所によって見えなくなってしまうので。グループワークはこういうポイントでこういうことをやってください、という手順書みたいなものを作ろうかと思っています。少しやりすぎかなとも思ったんですけど。

—— 当日、他に配布資料はないのですか。たくさんあるとまぎれちゃうのでは？

各自に配っていただくことも大事だけど、やはり前にばんと書いていただくことも大事ですよ。前回、自己紹介の紙を作るときに、(ホワイトボードに見本を)書いたじゃないですか。ああいう感じで、どこかに大きく書いてあるということも必要かなと思うのですよ。デモンストレーションというか。

(木村) プロジェクターで映しておくのはあまりよくないのですよね、おそらく。

—— 手元にも資料があるのだけれども、取り紛れちゃったときに、ぱっとあそこを見れば書いてある、みたいなのがあると、いいかなと思います。

—— それか、1枚色を変えた紙が入っていると見つけやすい。

—— グループワークのときに、発表者は皆さんで話し合っ決めておっしゃいましたが、ファシリテーターは特には決めないということですか？

(木村) ファシリテーターは、最初に決めたほうがいいと思うのです。

いっそのこと、ファシリテーターなんてやめて、元気ネットさんにやってもらっちゃうという手もあるかなと思ったんですけど、そうすると、公平性が余計なくなってしまうので、それはやめたほうがいいのですよ。

—— そうですよ。

(木村) だから、「アンケートも一通り、匿名で読ませてもらいました。フォーラムの目的が不明瞭とか、手順が不明瞭とか、サブファシリテーターや運営スタッフの公平性に問題があるという意見もあったので、今回は、こういう点に気をつけて、運営をこう変えました」ということは最初に言おうと思っています。

—— なるべく介入しないで済む、とは思えないですけど、介入した場合でも公平性を保つという意味で、木村先生から、サブファシリテーターの立ち位置をちゃんと説明していただくことは大事かなと思います。

サブファシリテーターが具体的にどんなことをするかも大事だけど、立ち位置というのは、最初のスタンスとしてとても大事ですよ。参加者にどのように受け入れられているかということが大事だと思うので、その辺を説明いただければと思います。

私たちが、できるだけそういうところに沿って行動したいと思っていますので。

—— 違う話題になるのですが、よろしいですか。

この前は本当に失敗したなという感じで、すごく雰囲気重いのですけれども、参加者の皆さんの中はご自分のスタイルを持っておられる方がいらっしゃるので、やはり、終わってからいろいろなご意見があるのは仕方がないことだと思うのです。

その中で、尊重して直すべきことは直して、研究として貫くことは堂々と貫いていくべきだと思うのです。基本線は変えずに、だけれども参加している方が公平感を持って参加し続けていただけるように、どうしたらいいかということを作戦会議したほうがいいと思うのです。そういう観点でアンケートのご意見を活かしていくことが必要なのかなと思います。

私が 3 つの班を拝見していたところ、グループワークの進め方に関して本当に細かくこだわって、質問してくる方が若干いらっしゃった。そういう方は、そういうことを大事にしながらこられた方なので、それは尊重しつつ、でも、これから毎回毎回そういうことで揺れるというよりも、自分たちはこの研究をどうしたいのか、という基本線を貫きながら、皆さんのお気持ちをうまく入れていくにはどうしたらいいのか、というところで考えていけばいいのかなと思って、伺っておりました。

(木村) ありがとうございます。まさに F2-3 の表面にある〔目的の説明〕に関しては、そういうことをちゃんと伝えないといけないですね、ということが書いてあります。

一番言いたいところは、〔目的の説明〕の③なのですね。立場が違うのだけれども、お互いを「尊重」することができるようになるためには、どういう経験が必要なのか。その経験として、このフォーラムというのはどうでしょうか、というのがこの研究の肝だと思っ

ています。当然違う立場の人たち、違う考え方の人たちが集まっているのだけでも、それを「尊重」というのはどういうことなのか少しでも分かってほしい、というか、分かるようなフォーラムを作りたいということですね。で、それを分かるためには、公平にしていけないといけない。

「尊重」がどういう感覚なのかが分からないと、おそらくは、協働はできないのですよね。協働するための土壌をどうすれば作れるのか。それを作るためにはどういうことに気をつけて、会を作っておかなければいけないのか。ということがこの取り組みで明確化するのではないかと考えていて。ここが私は一番ほしいところです。

ただ、これは難しく、言葉で言うと「そういう考え方もする人もいますね」ということなのだけど、浅く流すということではなくて、ちゃんと受け止めた上で、でも自分はそれに流されないような、そういうスタンスなのですよ。

—— 「否定されましたカード」を作るって、面白いですね。

(木村) そう、だから、そのくらいのもものも作ってもいいかなって。自分が言ったことが否定されたと思ったら、ぱっと出せるカードを作るというのも、ゲームチックで面白いかんと思ったのですが。ただ、やりすぎかなというのもあって。これは私の思いつきで書いています。

—— 「否定されました」まではいなくても、自分が言っていることと違うのだけど、うまく言えない、伝わらないみたいなきに、何か付けるとか。

(木村) コミュニケーションの経験があまりない人だと、言葉で話に入っていくというのは大変なんですよ。そこに何か工夫があったらいいなと思うのだけど。ものを言いたいカードみたいなものをあげてもらってもいいのかなと。

—— それこそ小さいリボンみたいなものでも置いておいて、納得できないときにはつけてもらおう。そうすれば、ファシリテーターさんが、「何かおっしゃりたいことがあったらどうぞ」みたいな振りができるのではないかと思いますけど。

(木村) やりすぎ感はあるんですよ。それから、乱用する人もいると思うのですよ。うまく回れば面白いかもしれないけど、失敗したら大変なことになるなと思って。そこまでテクニカルに入れなくてもいいかなと思いつつ、思いついたので、消すのがもったいなくて書いておいたのですけど。

—— これは私の捉え方があっているのかどうか分からないので、木村先生にお聞きした

いところでもあるのですけれども、相互に「尊重」するために、第 1 回は元気ネットさんに入ってもらって、ある程度きれいにグループワークを回すことによって、聞くことの重要性に気づいてくれたらいいな、という趣旨だったと思うのです。ただ、若干うまくいかなかったところもあったと。

第 2 回は、むしろ元気ネットさんが引いて、全然入らないことによって、ある程度失敗してもらおう。失敗の中で、人の話を聞かないとコミュニケーションは成り立たないんだなということに気づいてもらう。それが第 2 回の裏の趣旨というか、そういう感じの捉え方でいいのですか。

(木村) そうです。ある意味、自分たちがレベルを上げていかないと、コミュニケーションって成立しないね、ということに気づいてもらいたい、というのはある。

やはり、コミュニケーションの根本が分かっていると、境界を越えるのは無理だと思うので。でも、どうしたらそれに気付くのかなって。成功体験とよく言われるのだけど、失敗体験から得られるものも結構あると思うのです。成功体験というのは、それこそ、「うまく話したら、皆納得してくれました」みたいな成功体験だと、逆効果なのです。

—— 得るものは少ないですね。

(木村) 得るものは少ないのです。

だから、むしろ、第 2 回のグループワークは失敗してもらおう。でも、うまくいけばそれでいいわけですからね。ああ、なんだ、こんな簡単な仕組みでうまくいくのなら、これをもっと使えばいいねって、それだけの話であって。でも、たぶんうまくいかないだろうと私は思っているのです。

—— あと、ファシリテーターをどうやって決めるか、ということですが、班の中でやったことがない人がじゃんけんなどで決めてくれればいいかな、くらいに思っているのですが、小さな確率でファシリテーターをやった人が 6 人集まるという可能性はあるのですが、その場合、1 人チェンジとかを故意的にやって大丈夫ですか？

(木村) やらないほうがいいと思います。ファシリテーターは、かぶってもいいから、毎回くじ引きでやったほうがいいと思うのですよね。

—— 重なっても？

(木村) かぶってもいいから。何かこちらで意図していろいろといじると、運営に公平性がないと言われてしまいますから。

—— 毎回くじ引きだと、5回やって一度も当たらない方がいた場合は、いいのですか。

(木村) それは仕方がないかなと思っています。システムの限界かなって。

—— でも、ファシリテーターをしなくても、ファシリテーターをしている人を見て、見えてくることもありますよね。

(木村) 私たちは仮説として、この原子カムの境界を越えるための土壌を作る一歩というのは、コミュニケーションを通じて相手を「尊重」することを覚えることだと思っています。だから、ぜひ、まずは相手を尊重するということをやってみてほしい。結局それでもムラの境界を越えられない可能性もあるけれども、それは私たちの仮説が失敗しただけであって。まずは、尊重するということを中心に考えてコミュニケーションを組み立ててほしい。そういうことは最初に言おうと思っているのですね。

それを最初に言って、コミュニケーション・マニュアルを準備していたのは、そういうことなのです、ってつながっていけばいいかなと思っているのですけど。

そんなに甘くないかもしれないけど、一応理想論から攻めたほうがいいかなと思って。

—— でも、このアンケートを見る限り、どうしてもマイナスのところが目が行っちゃうけれども、良かったと思うとか、この先4回に期待する、というご意見もあったので、そういう期待を裏切らないように頑張りたいと思います。

(木村) ありがとうございます。こういうものを読むとマイナスのところばかり目が行くのですけど、前回の終わりにも言いましたけど、基本的に前回ほうまく回っていると私は思っていますから。

その上で、今日は、じゃあ次はどう回していくか、というところでの問題点出しです。

—— 学会員の方からも、市民の方からも、いろいろな方とコミュニケーションを取ることができてよかったというご意見があるのですよね。そういうプラスと捉えているご意見もたくさんあるので、そういうところは素直に喜びたいと思います。

(木村) それは大切なことだと思います。

—— 今、こういう目的が裏にあるのですねというお話があって、木村先生も失敗してもいいのではないかとおっしゃいましたよね。

そうすると、次回のサブファシリテーターの役割としては、手順とか段取りとか、時間とかはお伝えしていいかなと思います。

それで、参加者に公平に話してもらおうというところは、引いて見ていけば気がつくので、言ってもいいのかなと思ったのですが、もし失敗してもいいのだったら、公平に話してもらおうというの（サブは）言わなくてもいいのかなと今ちょっと思いました。

だから、木村先生が最初に「今日はこういう手順でやります」と言ったことがもし理解されていなければ、それについて、今日はこういうやり方をお願いします、ということだけを言えばいいのかなと思ったのですね。

前は、1回目のグループワークで「原子カムラとはなんだろうか」というのを書いてくださいと言ったときにも、印象とか、イメージとか、いくつか言葉を使ったのですけれども、やはり質問を受けたときに、説明しようと思って、また違う言葉を使ってしまったのですよ。そうすると、私のグループの人は、最初は皆同じ言葉を聞いているのですが、次に私が説明しようとした言葉も聞いてしまうわけですね。

だけど、そういうことに関して、もし質問がきたら、きちっと木村先生に返して、全体に対して言ってもらったほうが正確だな、と今思ったのですよね。その点はどうしたらいいのでしょうか。

でも、そうすると話し合いが1回1回止まるんですよ。

—— 「今はこういうテーマでこういう手順でやりましょう」というときに、その説明の言葉みたいなことに関してはどこかに書いておくといいのでは、という話が先ほどありましたよね。

そういうふうに、とりあえず皆が分かるようなキーワードだけでも書いて、出しておく。それを見て思うことをやってもらう、と徹底したらどうでしょうか。それ以上、プラスアルファでいろいろなことを言わなくても、とりあえずそれで意味が伝わるという状態のキーワードを用意しておく。

1回1回木村先生が来て説明して、というのはありえない。そうすると動きが止まっちゃうし、信頼関係が作れないから。

実は、第1回のグループワークは、参加者の信頼関係がない時期の割には、細かいことを要求するすごいプログラムだったということですよ。まあ、でも、それはやりきったので、次回からはもっと楽になると思います。

(木村) はい。

それに加えていうと、来年度は、全5回だったら、第1回は自己紹介で終わりだな、って思いました。ちゃんとフォーラムの趣旨を説明をして。自己紹介をして。自己紹介も30秒ではなくて、自分が普段何をしていた、こういうことを考えていますというのをもう少し説明してもらおう。それで懇親会があって、終わりだなという話も実はしていました。そ

れくらいのスケジュール感じゃないと回らないのかなと。まあ、これが午前午後になると、そんな悠長なことを言っていられなくなるので変わるのですけど。

それは来年の話なので、今年のフォーラムが終わった後に議論しなおさないといけないのですが。

—— 今の話の関連なのですが、今後、例えば原子カムラの境界を越えるためのワークショップのようなものを連続 5 回で実施するときの雛形というか、こういうやり方はどうですかということプログラムとしてきちんと作るということを考えれば、今、第 1 回は自己紹介くらいでいいのではないかというお話でしたが、きっと自己紹介だけだと、何のために集まっているのか分からないので、やはりもうひとつ作業みたいなのを、シンプルでもいいから、入れたほうがいいかなという感じがするのですね。

なぜかという、今回「原子カムラとはなんだらうか」というテーマでランダムにいろいろな意見を出してもらったからこそ、いろいろなことが見えてきましたので。皆さんが違う印象を持っているなどか。誰のことを言っているのかなとか。性格みたいなものが出てきたとか。いろいろなことが出てきているので、第 1 回をやってみたら、こういうことが分かったね、というのが共有できたことは、良かったのではないかと思います。

今回は、グループワークを細かく設定をしたので、その説明とか、受け取り方とかで、いろいろな問題点が出ているのではないかと思います。ですから、やり方を改造してやればいいのかなくて。それをゼロにして、自己紹介だけでというのでも、ちょっと違うような気がします。

—— 本人が語る自己紹介よりも、もっと雄弁に語っているものがあると思うのですよね。

まあ、3回チェンジしたのであわただしかった、というのはあるかもしれませんが。

(木村) そうすると、グループワークは 2 巡くらいでやるといいのかもしれませんね。意見出しとシール貼りまでを 1 巡目でやって、2 巡目でそのシールを見ながら、共感する付箋にコメントを書いてもらう。

途中でグループが変わったことで、大きな気付きはあったのかなと思うので、第 1 回は、グループが変わることはいいなと思ったのです。それに、いきなり全体発表になってしまうと、気付きを表明することがなくなってしまうので、そこ（3 回目の意見出しの作業を入れたこと）は良かったなと思います。

3 回はあわただしかったかなという気はしています。

まあ、それはまた、来年度の設計で。

—— 思えば、シール貼りは 1 回目からやればよかったのです。

(木村) そう、1回目からやればよかったのです。1回目の最後に、出てきた意見の中で、自分が推すものにシールを貼ってくださいと言っておけば、それでよかったのかもしれない。はい。すみません、それは次年度のフォーラムのときに考えたいと思います。

そういうことで、第2回はむしろゆったりと話してもらおうということもあって、ファシリテーションやコミュニケーションの難しさみたいなのところもある意味では知ってもらって、次につなげる回にしたいという思いもあるので、1回サブファシリテーターが完全に引いてみるというのをやってみたいなと思っています。

—— 一気に辞退者が出たら、どうしますか。

(木村) そう、それはありえるのですよ。

—— 私なら、辞退するかもしれない。まったくの素人がファシリテーターをして、その人が延々と自分のことを言っているような会だったら。時間の無駄に感じちゃう。

—— 見かねて口を出してくる人たちがいっぱい出てくるかもしれない。

—— それならまだいいですよ。

—— やはり、表情を見ていると、話せなかった人は、つまらなかったというか、表現できなかったなという雰囲気はありましたよね。

—— うまく話せない人も、本当は話したいのだと思うのですね。

—— あと、声が大きい人がわーっと言っていて、皆は黙って聞いていて、意見は言えないのですが、黙ってシールを貼ることで自分の意思表示をしている人はいましたよね。あれはよかったです。

—— 「話す」だけでは会が回らない場合もありますからね。やはり、何か「話す」以外のことを入れるといいですよ。貼ったことに対して、「どうしてそれに貼ったのですか」と聞くと、いいことをぼろっと話してくれることもありますし。

—— こちらに座っている方が向こうにシールを貼りに行くのが意外と遠かったのですよ。それで、「もう動いてくださっていいですよ」と言ったので、少し雰囲気が変わりましたよね。

—— そう。グループの中で動きが出てきた。そういういいところがありましたよね。

(木村) 少し話を戻しますけれども、すごく期待してきたのに、話し合いも満足にできないようなところに放り込まれたら、辞退しちゃうかも、という懸念は確かにありますね。

—— 前回だって、何人かはそう思っているな、というのは分かりましたよね。

—— ちょっと思いついたんですけど、いいですか。

最初に木村先生が、ファシリテーターとはなんぞやみたいな話をしてからグループワークに入るわけですよ。なので、「基本的にはくじで選ばれた方にファシリテーターをやらしてもらいますけれども、その人が出ずっぱりだったら、他の人もファシリテーター的な視点に立って、コントロールしてもいいですよ」と言ったら喧嘩になっちゃいますかね？

—— ファシリテーターだけではなくて、他の参加者もそれに陥る可能性はあるので、皆でその点に注意しましょう、みたいなことはやはりはっきり言わないと。特にファシリテーターは、そういうことは控えないといけないけれども。

(木村) そうしたら、ファシリテーターはこういうことに今日は気をつけてやってください、というのを定義しておいて、ここを逸脱しそうになったときにサブファシリテーターの人がそれとなく言うので、そこは、ああ、そうなんだと思って続けてください、と言いましょ。

例えば、「なるべく皆から意見を聞くようにしましょう。言っていない人には当てて、そこから意見を引き出してください」と書いてあったら、あの人は言っていないから、引き出してあげてください、とフォローできる。どうでしょうか？

—— 少し前の話に戻しますけれども、ファシリテーターはこういうことをする、というのを色を変えた紙に大きく書いて、配ってくださるわけですよ。あと、サブファシリテーターのスタンスも説明してくださる。

(木村) はい。

—— それがあって、ファシリテーターをしている人はそれを読んで忠実にやりたいと思っているかもしれない。だけど、延々話す人がいたときに、止めるタイミングっていうのは、実はすごく難しいのですよね。

—— で、止められた方は、やはり不満なのですよ。すごくしゃべっているのだけど。

(木村) そうしたら、発言1人1分ルールを作りましょう。1分でいいですか？

—— 3分は長い？

—— 3分は長い。1分でいいですよ。

砂時計を順番に回すようにしたらどうですか。発言したくない人は、ありませんということ次の人に回すとか。

—— (タイマーと違って) 鳴らなくていいよね。

—— 発表する人に回すわけですね。

—— 発表というか、順番に回していく。で、自分が今は発言したくなかったら、次の人に回せばいい話で。

—— 砂時計はあるのですか。

(木村) それは買えますよね。

—— はい。

—— そうすれば、ファシリテーターの負担が少ないですよ。ファシリテーターになった人はその紙を見て、一生懸命進行しようと思っているかもしれないけれども、なかなかできないですよ。長く話す人がいると。

(木村) ファシリテーションルールの中で、明言はしていないのですよね。「1人の人が長く話しているときは制してください」とは書いていない。そういう場になっていませんか、と問いかけているだけで。

それをちゃんと明確に書いて、「今日はここを守ったファシリテーションをやってください。ファシリテーションは、ある意味では特殊な技能ですので、いきなり全部をやるのは難しいとは思いますが、お話ししていくために必要なルールとして、今日はここに注意をして回すということを、ファシリテーターは頑張ってもらい、これに皆協力してください」と言って、グループワークに入ってもらおう。そうしましょうか。

このルールから逸脱したり、このルールをなかなか守ってくれない人たちが出てきたときに、サブファシリテーターはそこを助けにいきますという形にしましょうか。

—— それで、最初にポストイットに一齐に書くと。それを見せながら、1分ルールで話していく。

一巡が終わったら、そこから先はもうファシリテーターに任せるわけですね。

(木村) はい。そこはファシリテーターに任せましょう。

—— 今回はシールを使わないのですか？

(木村) 今回は、シールは使わなくてもいいかなと。グループチェンジはないので。

—— ただ、第2回の、テーマを何にするかがまだ決まっていなそうですね。

(木村) はい、テーマがまだ決まっていません。

50分間は、ひとつのテーマで議論してもらおう。テーマはこれから議論しなければいけないですけど。その後発表があって、質問を作ってもらって回収して、再度15分グループワークをする。2回目は、回答を作るためにグループワークをやる。15分で回答を作れるのかどうか、というところが怖いんですけどね。

ただ、やはり、自分たちがまとめたものに対して、いろいろな人がいろいろな質問をしてくるわけですね。そういう視点があるんだ、というのも大切に。

全然別の取り組みですけれども、「原子力の安全管理と社会環境」ワークショップというものを開いているのですね。それは講演3つでその後パネルディスカッションなのですが、質問票を導入しているのですね。そうすると、質問票にいろいろな人がいろいろな質問を書いてきて、休み時間に講演者がそれをうんうん言いながら全部読んで、分類をして、答えてもらっているのです。そういうのがあると、質問がたくさん出てくるし、ものに書かれているので記録にも残りやすいし、いいかなと思っているのです。

詳細は、少し私のほうでも考えますけれども、どうしましょうか、できたときにメールで皆さんに送ったほうがいいですね。

あとは、グループワークのテーマの部分はどうするかです。テーマについて話すときに、少し参考にさせていただきたいのが、F2-5です。これは、まだ整理しきっていないのですが、前回のグループワークで出たご意見を全部書き出して、分類したものです。イメージと、構成員と、特徴と。

実は、これをそのまま見せるのではなくて、さらにこの後、私のほうで整理をして、資料を作り直す予定です。それを、次回の最初に振り返りということで、参加者に示そうと思っているのですね。

これを示した上で、では何を話し合うかということなのですからけれども。割と、きれいに

分類できちゃうんですね。どれが正しい、どれが正しくないなんていうのは、定義がないのでありえないので、すべてをひとつの意見として見ていけば、あらゆるパターンが出てきているようなものにはなっている。

—— ピンクとブルーは分かるのですが、黄色の付箋は何ですか？

(木村) 黄色は、後で追加した付箋です。

ということで、前回の話し合いの中から、「原子カムラ」というものをいくつかの軸で整理すると、こういう意見がありました、というのは、まんべんなく、漏れなく皆さんにお示しをして、これを前提にして、今日の議論に入ります、という流れにしようと思っています。

その次に、新聞ではどのように使われているのかという議論 (F2-6) も少し紹介してもらえればと思っていますところ。これも後で見てもらいますけれども。

そういう前提でグループワークのテーマをどうするか、ということですね。ご意見をいただければと思っています。元々は『「原子カムラ」にある課題』という案で出していますけど。

—— 5分休憩しませんか。

(木村) では、F2-5 をななめ読みしてもらいながら、その時間を休憩にあてたいと思います。

(休憩)

(木村) では続きをいきたいと思いますけれども、その前に、言い足りなかったことあるそうなので、お願いします。

—— 初めてこういうフォーラムに参加した人って、たぶん、終わった後はものすごく興奮して、1週間はその興奮が残っている状態だと思うんですね。それで、2週間経って、どういう気持ちになるのかなと思うのですが、その変化というか、アンケートに書ききれなかった部分は、どうやって拾えばいいのでしょうか。

(木村) それは、拾いようがないですね。

—— その度ごとにインタビューもできないですね。1回ごとの興奮というのは結構いいかなと思ったのですが。

—— もしかしたら、第 2 回の最初に、アンケートに書かなかったけど、帰ってから感じたこととか、家族に話したこととか、一言言ってもらうのもいいかもしれないですよ。

(木村) 1人 30 秒くらいでやりましょうか。

—— そのときにお名前を言っていただくと、お互い再確認もできますからね。

—— そうすると、それは、【イントロダクション】の木村先生のお話の前ですね。

(木村) 前ですね。

—— それを聞くことで、他の方たちがあの後どう思っていたのかを聞くチャンスになりますよね。

—— そうですね。アンケートではなくて、自分の感想を言うのですから、言いやすいかもしれないですね。

—— そうですね。懇親会に参加された方ばかりではないので、会話されていない方もいるから。

—— 懇親会に関連して、ひとつ。2 千円で 2 時間という設定だとなかなか残れないけれども、終わった後に 10 分でも 20 分でも、参加しやすい会話ができる場があるといいねと言っていた方もおられました。

(木村) 会場は 18 時まで取っているのですが、どうしますか。私たちは参加する必要がなく、片づけていていいわけですよ。ただ、一部座るスペースを作っておいて、30 分くらいだったら、ここで情報共有していただくって構いませんよ、というスペースを作りますか？ これはもう任意なので、別に帰っても構わない、ってことで。

—— 1 回やってみて、皆さん帰っちゃうようだったら次回はなしでもいいですけどね。

和んで話すときがなかったのですよね。ほっとして話すという瞬間がなかったですよ。

(木村) そうなのです。本当は、休憩時間をもっと作りたいのですよね。お茶コーナーも壁際に置くのではなくて、島にして、おかしとかお茶をおいておけば、そこに取りに行くと、そこで少し話ができる。20 分くらい休憩にして、話ができる時間を取ると、全然

違うのですよね。

—— スペース的には島にしてお茶コーナーを作ることはできると思うのですが、次回はスクールの部分はないのですか。

(木村) なくていいですよ。

—— そうしたら、真ん中にお茶コーナーをおいて、グループワークの島 3 つをちょっと離して。

(木村) ああ、それがいいかもしれないですね。はい、分かりました。

そうしたら、続きですけれども、グループワークのテーマですね。こういうまとめを参加者の皆さんに出した上で、どういうテーマ設定にして話したらいいのでしょうか、ということ。

前回の終わりでは、基本的には原子カムラの明確化と、その課題について話をする、ということになったのかなと認識しています。その中で、実は、こういうふうに整理したら、ある程度明確化されてきたなという気がしていて、これを示したらもう次の話題に入ってもいいんじゃないかと思ったのですが、どうですか。

—— 私は、原子カムラとはなんだろうということを皆さんが前回あれだけ言いあったのを、もう 1 回共有するという時間があつたほうがいいかなという印象を持って、今日は来ました。

なぜかという、前回の振り返りで、専門家の方から、「他の人がどう考えていても前提が非科学的だったり、誤解があるまま話しているのを、きちんと説明する時間もなくて、そのまま進んでしまったのはつらかった」というようなご意見がありましたよね。そういうお気持ちの方は、きっといらっしゃると思うんですね。

反対に市民にとっては、専門家がなぜそういう気持ちになるのかをもう少しちゃんと話し合いができたほうがいいのではないかと思ったのです。

それはもう第 1 回で終わっているという理解でいいのか。でも、もう少しそこをちゃんと話さないと、不満が延々と残るのかなと思っていました。

(木村) 今おっしゃっていただいたことを、どういうテーマ名に落とし込んだらいいでしょうか。やはりそれもグループワークでやったほうがいいですよ。

—— そうですね。原子カムラってどこにあるのか、原子カムラのガンはどこか、この 2 つでいいのではないかと思うのですが。

—— でも、私もそれは大事だと思うのですが、ここに出ているポストイット以上のことってあまり出ないのではないかっていう気がするのですよね。また同じようなことが出てくるだけで。

—— そうですね。

ただ、あのとき皆さんには、「原子カムラってどういうことか」というのをもう少し話そうということと、閉鎖的とか、かなり特徴が出てきたので、それを越えるにはどうしたらいいかという辺りを話しましょう、というような呼びかけをした記憶があるのですね。

ですから、前回皆が話し合ったときに出た意見がどういう傾向だったのかをもう 1 回共有をして、閉鎖的とか、そういう特徴に関してもう 1 回皆で話し合っ、それを越えるには一体何が必要なのか、みたいなどころまで話せば、皆が一体何を考えているのかが見えてくるのかなと思うのですが。

(木村) なるほど。前回の話を整理してみると、とりあえず、特に原子カムラが持っている特徴がずいぶん明確に見えてきたと。この特徴ということについて再確認してください、という時間を取ってもいいかもしれないですね。どういうテーマ名にすればいいかな。やることは、原子カムラの特徴に関する再確認と、それを越えるためには、ということですね。

—— 特徴というか、イメージですよね？

—— そのときは、会場から、**What** と性格の 2 つに分かれていますね、というご意見が出たので、それを受けて、その辺の 2 つを次回きちんと明確にして話し合っていきましょうねと言ったはずですよ。

—— [概念] とか [論理] とか [感情] とかのお話がありましたよね。前回のグループワークの中で、原子カムラという言葉の事実がどうなのか、ということをおっしゃられた方がいたのですよ。

前回、原子カムラについての皆さんの思いが、だいたい集約されたわけですよね。ざっとですけれども。そこで、事実はどうなの？ みたいな。

—— 事実なんて分からないですよね。

(木村) 実は、事実がないのですよね。ところが、事実がないということをもっとよく認めたくないわけですね。そこが難しいところなのです。定義がないものだから。

—— 定義はないですね。

—— 前回の皆さんの話し合いを活用して、次のイントロが始まるようにしないと。前回話し合ったことがどう活かしているのか、それが見えたほうが皆さんの満足感が高いと思うのですね。

(木村) そうですね。

—— ですから、まず木村先生から、前回の皆さんの言葉をまとめたところ、どういう傾向が出たかということをお話していただく。

次に、マスコミではどのように語られているのか、という情報提供があつて。

それらに関して少し意見を言っていただく。それはグループワークじゃなくて、その場で意見を言っていただければいいと思います。別に、そこで何かが決まるものでもないの。木村先生のまとめと、マスコミに関する情報提供を聞いた上で、皆さんがどんな考えを持ったかというのを、手をすぐにあげて話したいという人が、きっと3、4人はいらっしやると思うので、それで話していただくと。そのようないろいろなお考えや気持ちがあるという前提で、今日も話を始めましょうということで、そこはあまり深めたり、何か結論を出す必要はないと思うのですね。5回の中に皆で考えていくことが大事なことになるのだという共通認識でスタートすればいいのではないかと、という印象を私はもっています。

それで、次にグループワークに入る。前回は、例えば閉鎖的とか、とっつきにくいとか、中が不透明とか、そういうネガティブな意見が多かったですよね。一体なぜ皆がそう思うのか。それから、そういう壁を越えるために、原子力に携わる人や、市民社会や、社会全体が、どんなことをすればいいのか。そういうことを話し合ってもらうのが大事なのではないかと思うのです。

その前提として、ムラの境界を越えるには相手を「尊重」することがポイントだ、というのは心根の問題です。それはおっしゃっていただいても構わないと思うのですが、グループワークでは、社会のありようみたいなものに関して、皆さんに話し合っていたら。そういうこと話すときの方法論として、違うご意見の方のお話を受け止めながら話す。聞く態度、話す態度というのを身につけていっていただきたい。そういうところから、本当に人間的なところでその垣根が取れていくかどうかを、この研究では見ていきたいんだ。そういうことが私たちの中で共有できていけばいいのかなと思ったのですが。

—— 前回、私が参与観察していて感じたのは、専門家が、「我々専門家は～」と語ることが多かったということです。専門家というまとまりで自分たちの話をするのが多かったのです。

できれば皆 1 人ずつ違うんだという意識を持ってほしいと思ったときに、今おっしゃったような、どうやって皆で対応していくか、という議論になったら、専門家は、「私たちは今までこういうふうに来てきた」という話をすると思うのです。一方で市民は、「我々はこういうふうに来てきて、それに対してどう対処すればいいのか」という話になるでしょうし。専門家は専門家、市民は市民という対立構造がしっかり出てきてしまうのではないかと、ちょっと怖いと思うのですね。

最終的にそういうところまで持っていくのが目的なので、いずれはやるにしても、第 2 回でそれをやるのは少し怖いと思うところが実はあって。

—— 例えば第 2 回か第 3 回のテーマは、原子カムラには関係ない、本当にごく一般的なテーマで話し合っ、第 4 回か第 5 回にもう 1 回原子カムラについて話したほうが、その壁が薄くなった状態の意見が出てくる可能性はないですか。

コミュニケーションの訓練だと思って、2 回、3 回のテーマは、誰にでも関係するようなことをテーマにする。いきなり原子カムラというテーマにしたから、つい、市民と専門家がガチンコになっていましたよね。

—— ただ、前回の内容をまったく反映しないのも、不満が出そうですが。

—— 前回、垣根がたくさんあるというようなご意見がどの班からも出てきて、その辺りはちゃんと 1 回話さないといけないですね、と私は言っています。次回もしそれを話さないなら、例えば、前回出た大事なところは第 4 回、第 5 回くらいにしっかり話しましょうね、みたいに言わないと、逃げている感じになっちゃうので。

—— そうですね。

あと、時間の問題もあるので、対応策まで話すのは厳しいかなと思います。構成員などをもう少し具体的に、くらいでいいのかなと。あとは、特徴がたくさん出ている中で、どの特徴が一番つぶさないといけないところなのかとか。そのくらいの話で止めれば、そこまで対立にはならないのかなと思ったりもしているんですけど。

—— 原子カムラって言っているけど、現実には皆どれがムラか分かっていない、あるいは、ムラということをあまり意識していないのに、マスコミだけが使っているのではないかと、という意見も結構出てきたので、対立ばかりとも限らないのではないかと。

—— 少しずれるかもしれないんですけど、前回のグループワークで、市民の方が、「経営者と現場の乖離ってどの世界にもあるんですよね」という話をして、一般論にしていたのですね。そのことで、市民も専門家も話がしやすくなったように見えたのです。

そういう、お互いが垣根をあえて作らないで、それぞれの立場からアプローチしていく様子を見ていて、いいなと思ったのですね。

—— そういう、もっと普通の話が出てくる状態の話し合いができるといいなと思いますね。

—— 例えば、放射線に対して、それこそ原子カムラの方はある程度科学的な事実があるから、別に怖がらない。このくらいだったら大丈夫だと。ところが、市民のほうから見ると、何ベクレルがどうか、そういう情報がよく分からないから、ただただ怖い。ものの見方にギャップがあるというのもひとつの切り口かなと思って聞いていたのですね。

—— 専門家の方で、自分は科学者としてはデータに基づいて理解できる範囲があるけど、家庭人としては、そのデータが家庭の中の安心にはつながっていないと。両面を持っているというお話をされたのですよね。

それから、「とっつきにくい」というキーワードに関しては、専門家は市民はとっつきにくいと思っているかもしれないし、市民は専門家はとっつきにくいと思っているかもしれない。

お互いに「あっ」って思えるような話題にできたら、それもありがたなと思いますね。でも、そうするとまた対立になっちゃうかもしれないけど。

—— 私の対立という言い方が悪かったなと思うのですが、グルーピングされるのはよくないということです。専門家というくくりで見えちゃうような話題の作り方は、第2回、第3回辺りではしたくないなということです。

(木村) それに対しては、「我々」とか、「我々専門家」とか、「私たち市民」とか、集合体を代表したような意見を言うのは控えましょうというのは言ってもいいと思うのですよ。全部一人称でやってくださいと。誰かの代弁者である必要はないと思うので。それは言ってもいいかなと思うのですね。

—— 専門家の人でも、一市民であり、仕事をしているときは専門家であり、母親であり、父親であると。切り口をいろいろ持っているのです。そういう切り口の話題の持っていき方ができれば、垣根というよりも、人間の多面性的な話題にも持っていけるかなと思いますね。

—— 例えば、話し合いを進めるときのお約束事ってありますよね。実は第1回で、1つだけ、「さん」付けでやりましょうねとお約束事を勝手に決めさせてもらいました。

実はあれは、いろいろな方がいるときにすごく大事なのです。大学の先生とか、病院の先生とか、先生とつく方だと、皆が気をつかって「先生」と言うのだけれども、本当は皆同じ社会人なので。あまりそこを明確にし始めると、結局「専門家」と「一般人」みたいなことがどんどん皆の心に入っていってしまうので。大勢の方の話し合いを進めるときには、さん付けにするというのは、かなり気をつかってやっているのですね。

例えば、第1回はそういうルールを皆さんにやっていただきましたと。第2回は、それプラス、一人称で語り合うというのをやりましょうよと。

1回に1つぐらいずつそういうルールを増やしていくと面白いのかもしれない。そうすると、相手を尊重しあいながら話していく心構えとして、徐々に身につけていくものもあるかもしれないな、と思ったのですね。自然に気がついていただけることが本当はいいのかもしれないけど。

(木村) 一人称は入れたほうがいいかなってというのは、私も前回を受けて思っていたのですね。特に専門家は、「私は」となかなか言わないので。

—— 専門家の方はやはり何か背負っているものがあって、話すときには、自分個人ではなく、背負っているもので話そうとする。そういう傾向が見えてきたのかもしれないですね。女性の科学者は、職場も家庭も5対5くらいで重要なものなので、その狭間で悩むことが多いのかなと。

(木村) ええと、テーマは結局どうしましょうか？

—— すみません、ひとつ気になっていたのですが、前回出た意見は、「原子カムラ」の特徴ではなくて、「ムラ」の特徴が多いな、と思いました。例えば「閉鎖的」というのは、原子力じゃなくて、「ムラ」の特徴ですよ。一般的な「ムラ」の特徴なのか、「原子カムラ」の特徴なのか。

(木村) それは、話してもらえばいいかなと思っているのですが。それを私たちが区分けしては駄目だと思います。

で、テーマですが、どうしましょうか。言葉で言うと、原子カムラの特徴には閉鎖的とか、とつきにくいとか、壁があるというイメージが多く寄せられるけども、なぜ皆がそう思うのか？ ということですよ。それを話し合ってくださいと。

—— 第1回でそれを皆で共有したので、そこを話さないと次にはいけないかなという気がします。

(木村) どうすればそれを越えられるのか、までは、1回(50分)では無理でしょうか。

—— ファシリテーターの能力次第ですよ。

—— ただし、設定としては「どうすれば越えられるのか」まで言ったほうがいいと思います。ネガティブなことばかり言っていて終わりというのはすごく疲れるので。話がうまく進んだら、どうやったら越えるのかというところの意見まで本当はほしいです、ということを進めていって、で、途中までしか行かなかった、としないと、とても疲れるかなと思います。

—— 参加者によっては、自己否定になっていってしまう場合もありますものね。

—— すみません、F2-5のまとめ方についてですが、下にピックアップされた付箋が並べてありますが、これも一応上のほうに戻したほうがいいと思います。二重で書いてあげないと。

(木村) 実際に参加者に見せるときは、これをそのまま使うのではなくて、A、B、Cでバラバラではなくて、ちゃんと集約したものを作るので、そこは大丈夫です。

—— グループごとではなくて。

(木村) はい。グループごとではないです。全部をまとめて、こんな意見が出ています、というものを作ります。

ええと、「なぜ原子カムラは、閉鎖的とか、とっつきにくいとか、ネガティブに思われてしまうのか？」でしょうか。なんか、嫌な題ですね。

—— 理由とか、そういう言葉じゃ駄目ですか？

(木村) 理由という言葉は抽象的すぎて、答えにくいのですよ。質問文にしてあげないと、答えにくいのです。

で、「それを越えるにはどうしたら良いだろうか？」ですね。

—— 「なぜ原子カムラはネガティブに思われるのだろうか？そこを越えるにはどうしたら良いだろうか？」。そういう感じですね。

—— 越えるっていうのは、うーん。専門家から見たら、別に越えたいと思っていないか

もしれないですよ。

— いや、でも、自分たちが社会からネガティブに思われているということを知ったら、やはりそのままでは気分が悪いでしょう。

— いや、それは「越える」ではないでしょう。「解消する」とか。

— そうですね。何か他の言葉にしたほうがいい。

— ネガティブではない言葉もありますよね。「安全の基準は明確」とか。

— C班は、はっきり「何となく悪いイメージ」と書いていますね。

「何となく」というのは漠然としているけれども、実際には、専門家じゃない人から見たら、「何となく」というのは意外と大きいと思うのですよね。なんだか得体がわからないのだけど、良いイメージが持てない。

(木村) では、「なぜ、原子カムラは何となく良いイメージが持たれないのか？」にしましょうか。

— それはいいかもしれない。市民は意外とイメージで動いてしまうところがあるから。専門家はイメージではなくてデータで動いていて、そこがまたぶつかっている面があるかもしれないから。

— ソフトな感じだし、いいんじゃないですか。

— 続きはどうするのですか。

(木村) 「そのイメージを払拭するには、どうしたら良いだろうか？」。

— ああ、払拭なら、専門家の人も、払拭してほしいですよ。

— タイトルはそれでいいと思うのですが、付箋で気になったことが。「専門家集団」というのは、一般の方が言っていて、原子力学会の方はあまり言っていないのですよ。

— 「専門家集団」とか、そういう1つ1つの言葉にも、青い付箋を使う方と、ピンクの付箋を使う方との間に、結構なずれがあるかなと思いました。

もしかしたら、青の付箋を持つ人の間でも、「専門家集団」に対する定義や、構成員が違っていたりする可能性はないのでしょうか。

—— 「専門家」って、都合がいい言葉ですよ。専門家と言われると、自分とは違う人たちだって。イメージとしてもそう思ってしまいますよね。

—— きっと市民は、「専門家」というと、すべて網羅して分かっている人、というイメージがあるのですよね。でも、本当は専門家というのは、この分野の専門家とか、分野のことを表しているの。専門家という言葉に対するイメージが全然違う。

—— そういうお話ができると、一般市民の参加者も、ああ、そうなんだと思う人も結構いると思うのですよね。

(木村) では、『なぜ、原子カムラはなんとなく良いイメージを持たれないのか？ そのイメージを払拭するには、どうしたら良いだろうか？』をグループワークのテーマにしたいとは思いますが。

手順としては、最初に、前回のグループワークのまとめを見て、どういうことを思ったかということを確認をして、それからこのテーマに入ってもらおうということですね。そういうスタイルで進めたいと思います。

いろいろと私が作らなきゃいけない資料が膨大なのですが、頑張って作ってみますので、またメールでお送りしますので、ご意見をいただければと思います。

—— 今回はグループワークは固定でやるということですね。

(木村) 固定でやろうと思います。

—— そのテーマをぱっと出されて、何をしたいか分かりますか？ 結構難しいかなと思うんですけど。

(木村) その辺もリードを作る予定です。

—— 付箋の色分けとかはずっと同じですか。

(木村) それは一緒にいいですよ。色分けしたほうが面白いですよ。

「区別がつかない」みたいな意見が出ていましたけれども、それはむしろ私たちとしては、よききた、っていう意見なので。ちゃんとグルーピングをしておいて、そのグループ

に差がないことをお互いに分かっていくというプロセスも、いいかなと思いますので。

—— シールは使わないとおっしゃいましたけど。

(木村) どうでしょうか。シールは入れますか。

—— 意見は言いづらい雰囲気だけれども、シールは貼っていた、という場面はあったのですよ。

—— 質問を考えるときに、共感する付箋にシールだけは貼っておいて、質問は別に考えるとかもありかもしれない。どういう意見に共感者が多いのかというのは、ひとつのチェック項目にはなるかもしれない。

(木村) 10分でそれができますか。他の班の意見だと、これはどういう意味ですかと聞いてから始めないといけないから。

—— 同じ班の人が、発表しているときにシールを貼るのだったら、共感の本当の数字は出てきますよね。

(木村) では、とりあえずシールは用意だけはしておきましょう。

—— やはり、貼るときにいろいろ判断していますから。いろいろな条件があるのだと思います。

(木村) 一応1分ルールを入れるので、ずっと話している人は少なくなることを期待したいのだけれども、それでも、言葉では表現できないけど、なんとなくこれには同意するというときの表明手段としては、シールというのは便利なので。

—— 書くのが苦手な人もいるのですよ。なかなか自分の気持ちを短い言葉に書いて表せないけど、人が書いているのを見て、ああ、それぞれ、って思うこともありますよね。

(木村) では、シールは入れましょう。説明して、1個ずつ付箋を貼るときに、共感する人は、もうその場でシールを貼っていくというスタイルにしましょう。

3. その他

(木村) では、次は記録に関してです。

今回のフォーラムの発言を書き起こして、公開するわけですね。その公開の形式をどうするかということが、ひとつのポイントです。そのときに、F2-5 (付箋) も公開しないと、文章だけを読んでも分からないと思うのですよね。これは記録なので、記録として公開すべきかなと思っているのですが、そのことも含めて、少しご意見をいただければと思います。

では、記録担当から、簡単に説明してもらっていいですか。

—— はい。F2-4の2ページをご覧ください。

普段記録を作るときは、まず書き起こして、その後文を整えています。まず、生の文を公開するか、整えた文を公開するか、ということですが、私は、整えた文でいいと思っています。整えないと、意味が非常に分かりづらいです。

①は、書き起こしは記名で作成するのですが、それを誰まで共有するのかということ。これは研究者レベルかなと個人的には思っています。

②は、先ほど言いましたが、公開は文を整えてからのほうがいいと思います。

③が議論が必要なところだと思います。まず、Aさん、Bさん、Cさんというふうにするかどうか。第1回のAさんと第2回のAさんを同じにするか、それともシャッフルするか。もしくは、完全に匿名にするか。

④自己紹介の部分に関しては、公開しないという方針ですが、内部データとしては記録を作るべきかどうか。これは木村先生と話をし、フォーラムが全部終わるころに仕上げてくれればという話でしたので、その方向で対応します。

模造紙については、電子データ化はする方向だと思いますけれども、公開するかどうかという議論だと思います。

③について、方針を決めていただければと思います。

(木村) 私は、会話調で、完全匿名でもいいかなと思いましたが。サブファシリテーター、ファシリテーターだけ表記して、あとは名前を完全に消しても通じると思うけど。

—— 2人が議論しているのか、3人が議論しているのかは分からなくていいですか？

2人が会話しているときに3人目が「いやいや、そうじゃなくて」とか入ってきたときに、よく分からなくなるのではないかな。

(木村) 実際に見てみないと判断しにくいですね。

—— 分析に使うのは、公開用のデータですか。

(木村) 分析用は記名データです。そうじゃないと、いつ誰がどうなったかが分からないから。それを確定しなければいけない。それは研究者内でデータとして保管します。

公開用は、どういうことが話されていたかが分かればいいのであって、誰がどういうことを話したかまでは分からなくてもいいのではないかと思いますけど。

—— では、ファシリテーターを (F)、サブファシリテーターを (サブ F)、他はダッシュ (—) で作りますか。

(木村) それで作ってみてください。

あとはどこまで共有するかですけども、サブファシリテーターの方は、原文は読みたいですか？

—— 読んでも、修正できるわけではないですよ

(木村) 修正はできないですけど、後学のために。

—— いや、見なくていいです。

—— F2-2 のアンケートは公開するのですか。

(木村) これは公開しません。これは我々が次のフォーラムを行うための資料です。

—— そうですね。そう思われているということは謙虚に受け止めないと。

—— このアンケートは名前が特定されていないので、私たちは見てもいいということですね？

(木村) 名前なしのデータは、内部情報としては共有しても構わないと思っています。ただ、外には出さないでください。今日配った資料は、基本的には非公開レベルの高いものですから、注意してください。だから、業務推進全体会合のメンバーのオブザーバー参加は控えてもらったので。

最後に、F2-6 のパワーポイント資料について、何かありますか？

—— まだ完全ではないので…。

—— これはプロジェクターで発表するのですか？

—— いや、プロジェクターは要らないです。

—— スクリーンやホワイトボードはどうしますか。

(木村) 何も変わりがなければ、今回も模造紙を 3 枚貼るというのは変わらないので、最低限貼れるものがが必要です。本当はボードが 3 台あって、各グループの後ろにあるほうがいいのですけど。

—— 自分たちの島だっていう緊張感がありますよね。

(木村) F2-6 は新聞記事のみを扱っていますけれども、原子カムの情報提供は新聞記事のみでいいですか？

—— 文献くらいは出そうかなと思っているのですけれども。文献というのは、原子カムラという言葉が使われている文献です。

(木村) でも、一番大きいのはインターネットなのですよ。

—— そうなのですよ。インターネットの情報をどこまで取ってくるのかというのは非常に難しいところで。文献調査だと基本的には汚い言葉とかは出てこないのですけど、インターネットならそれを取ってくることはできると思います。それをどのようにまとめればいいのか、というのは悩ましいところです。

(木村) 「原子カムラ (村)」を検索したら何件くらいヒットして、上位 10 位はどういうサイトです、くらいのデータでいいと思いますよ。何日調べ。それくらいの定性的なデータでいいのですよ。一方インターネットではこのくらいです、というような簡単なデータがあったほうがいいのかという気がします。

—— 文献というのは読み物ということですか。学術書ではなくて、普通に出版されている読み物。

—— そうです。週刊誌までは追いきれないところがあるのですけど。

(木村) いろいろなところで使われているけれども、限定的にここについて話します、という話をしておかないと。これが全てだと思われてしまうと、偏ったデータを出したと言われるから。

—— マスコミが煽っているという意見が出ていましたね。皆さんが思っているマスコミがどれのことかは聞いていないけど、普通こういうときに言うマスコミって、もしかしたらテレビのニュースとか。

—— テレビは追えないのでどうしようもないんですけど。私は新聞しか見ていないですけど。週刊誌、テレビは追いきれないですね。

(木村) 実は、大新聞にはほとんど出てこなくて、地方新聞なのですよね。

このデータを出した結果として、偏ったデータを提示して議論を歪めようとしていると思われぬようにデータを作らないといけないから、そこは注意しないといけません。

—— はい。なるべく客観的に見える事実だけを。

(木村) そうなのだけど、その客観的なデータをこちらがチョイスしたと見られないようにしないといけないということです。

質問を受けると、一般の人からはそんなに出てこないかもしれないけど、専門家からはたくさん出てくると思うので、それなりに覚悟をしておいてください。

—— 私が文献で取り上げようかと思っていたのは、基本的には読売新聞か朝日新聞の中で書籍として紹介されているものです。まあ、そのチョイスは、偏っていると言われれば偏っているのですけれども、うまく調整しながら処理しようと思います。

(木村) はい。

ということで、30分ほど超過しましたがけれども、議題は一通り終了しました。

次回のフォーラムは来週の土曜日ですね。また11時集合でいいですか。直前打ち合わせはしますか？

—— 11時集合で、少し直前打ち合わせをやりましょう。

(木村) 11時に集合して、30分くらい打ち合わせをして、用意を始めましょうか。では、11時集合でお願いします。

その次の研究会としては6月19日の午前中に3時間とっています。よろしくお願いま

す。

ということで、今日はここまでにしたいと思います。どうもありがとうございました。

以上